

水稲新品種「スルガワセ」について

岩下友記・新屋 明・松元幸男・山川恵次
(鹿児島県農業試験場)

I WASHITA, T., SHINYA, A., MATSUMOTO, S., and YAMAGAWA, Y.
A New Variety of Paddy Rice Plant "Surugawase"

水稲「西南32号」は昭和45年から静岡県で奨励品種に採用され、通称名を「スルガワセ」と命名して、普及に移されることになったので、育成経過と特性概要について述べ参考に供したい。なお本品種の育成に直接従事した職員は朝隈純隆ほか3名と筆者等である。

来歴ならびに育成経過

スルガワセは昭和33年鹿児島県農業試験場において「金南風」を母、「アキバエ」を父として人工交配を行ない、以後系統育種法によって育成固定をはかり、昭和40年(F₇)で「西南32号」の系統名を付し、関係各県に配布して、地方的適否を確かめてきたもので、昭和45年(F₁₀)で「水稲農林212号」に登録され、「スルガワセ」と命名された。

特性の概要

1. 形態的特性 稈長はコシヒカリより短く、穂数は同程度、稈はやや太く、比較的強稈性の中間型梗種。無芒で稈先色は淡々褐、粒着中、脱粒性難。

玄米は中形中粒で復白が少し発生し、品質はコシヒカリにやや劣るが、食味はよい。

2. 生態的特性 出穂・成熟期はコシヒカリよりも3~4日おそい早生種である。いもち病耐病性はコシヒカリと同程度で弱、紋枯病耐病性は中、穂発芽性難、耐倒伏性は強である。

適地および奨励品種採用県

静岡県の平坦地および中山間地帯の短期栽培用に最も適し、昭和45年度から静岡県で奨励品種に採用され、約3,000haの普及が見込まれている。

一 般 特 性

品 種 名	スルガワセ	コシヒカリ	ホウネンワセ
形 質			
早 晩 性	早	早	早
草 型	中 間 型	中 間 型	やや穂数型
出 穂 期	7月4日	7月1日	7月4日
程 長	75 cm	83 cm	84 cm
穂 長	19.0cm	18.2cm	17.6cm
穂 数	19 本	20 本	22 本
芒の多少・長短	無	無	稀・短
稈 先 色	淡々褐	白	紅褐
脱 粒 性	難	難	難
耐 倒 伏 性	強	弱	弱
穂 発 芽 性 難 易	難	難	中
葉いもち病耐病性	弱	弱	弱
首いもち病	弱	弱	弱
紋 枯 病	中	中	中
縞葉枯病	中	中	中
α 当 玄 米 重	42.8kg	42.9kg	40.1kg
玄 米 千 粒 重	19.4g	19.2g	19.2g
玄 米 品 質	上下~中上	上 下	上 下
食 味	良	良	良
調 査 地	鹿児島県農業試験場(昭38~44年平均)		

栽培上の注意

- (1) 早期および短期栽培等においては苗代日数が長くないようにする。
- (2) いもち病には強くないので、いもち病常発地帯での栽培はさける。
- (3) 早期栽培では過熟になると、玄米の光沢があせやすくなるので、適期に刈取る。
- (4) 耐冷性は弱いので、高冷地での栽培はさける。

命名の由来

採用県である静岡県がかって「駿河の国」と呼ばれた地名にちなむ。